

物件を守る ABC

高齢化が進む日本。賃貸オーナーにとって入居者が高齢者、というのは不思議ではなく、防ぎたいのは万が一の「事故」。予防のための新しいサービスが登場している。

増える単身世帯 孤独死リスク増加

「孤独死」が増えている要因は2つある。ひとつは「高齢化」だ。高齢化率は年々伸び、2017年では27.3%を記録している。

これと並んで進行する単身世帯の増加も要因のひとつだ。5年ごとに総務省が行う「国勢調査」においても増加傾向が続く。2015年の調査では一般世帯の34.6%に当たる1841万7922世帯が単身世帯だった。

各自自治体でも孤独死を減らすと、「孤立死防止対策」に取り組んでいる。各自自治体の取り組みも進む。

高齢者は「優良入居者 安定経営に向け不可欠」

一方、この問題は不動産オーナーにとって大きなシレンマとなっている。

来られる方が多く来きには補償するサービス(山本氏)。自然にスは多い。保険業界で長期入居につながる。その先陣を切ったのが加えて、比較的生活マナールの良いケースが多(東京都中央区)の販売することも特長。そのた売す「無縁社会のお守り」だ。2011年8月、入居者同士でトラブルになることも少ない。2018年3月現在で申し込み戸室数は2万3000戸を超える。この商品の展開は「築年数が経過した和室の部屋でも、高齢者にとってはお互いの好まれる傾向もありま

賃貸物件での孤独死を防ぐ オーナーのための対策術

「R65不動産」を展開するR65(東京都杉並区)代表取締役の山本氏は「人口減少で空き家・空室リスクは高まっています。当社が所在する杉並区でも空室率の上昇が懸念されています」と指摘する。

65歳以上の高齢者が賃貸物件に入居する場合は、「終の棲家」となるケースが多い。実際、不動産オーナー向けに孤独死リスクを

「R65不動産」を展開している事業者と連携して、オーナーや管理会社に向けて提案やコンサルティングを行う

「R65不動産」を展開している事業者と連携して、オーナーや管理会社に向けて提案やコンサルティングを行う

「R65不動産」を展開している事業者と連携して、オーナーや管理会社に向けて提案やコンサルティングを行う

「R65不動産」を展開している事業者と連携して、オーナーや管理会社に向けて提案やコンサルティングを行う

負担感の少なさがメリットに

見守りサービスは各社が提供している。オーナーに合った価格帯で、所有する物件の価値を守って、初期のステップとして活用されていくのではないのでしょうか。

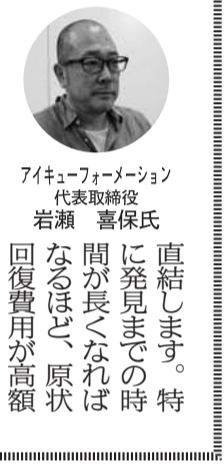
アイアル少額短期保険 代表取締役社長 安藤 克行氏

00円 設定はこれまでにない

プライバシーに配慮した見守りに

これまでの見守りサービスは監視カメラを活用すること、もしくはセンサーを利用することが多かったが、監視カメラではプライバシーの問題、センサーでは検知・検証しにくいという問題があります。

R65 代表取締役 山本 達氏



アイキューフォーメーション 代表取締役 岩瀬 喜保氏

物件価値を守るサービスに

賃貸物件の所有に大きな影響を及ぼす「見守りサービス」が注目されています。物件価値の下落を防ぎ、

「見守りサービス」は、物件価値の下落を防ぎ、

電気の機能で“明日を見守る”

おひとり暮らしの方などの毎日の電気の使用量から異変を察知する機能が付いた電気です。

高齢独居の入居者様への賃貸をご検討の大家さん、管理会社様にもご活用頂きたいサービスです。^注 通常の従量電灯料金にプラス 300円でご利用いただけます。

平常時の電力使用

起床していない可能性のある電力使用

もしもの時に安心

操作はシンプル

電気代はそのまま

もしもの時に 安心ね!

★「見守り電気」の詳細は当社ホームページで <https://mydenki.com/mimamori/>

注：見守り者を特定して見守り対象者の同意が必要になります。